

審議会等の会議結果報告

| | |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 会 議 名 | 第 26 回 松阪市政推進会議 |
| 2. 開 催 日 時 | 令和 4 年 11 月 4 日（金）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分 |
| 3. 開 催 場 所 | 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室 |
| 4. 出席者氏名 | 出席委員：岡山慶子委員、小野崎委員、門暉代司委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中西郁絵委員、西川明樹委員、平岡直人委員、三井高輝委員、村林守委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員 欠席委員：梅村光久委員、西村訓弘委員、松浦信男委員 事務局：竹上市長、山路副市長、永作副市長、岡本企画振興部長、藤木企画振興部経営企画担当参事兼課長、小川企画振興部経営企画課政策経営係長 |
| 5. 公開及び非公開 | 公開 |
| 6. 傍聴者数 | 1 人（内、報道関係 1 社） |
| 7. 担 当 | 松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp |

・議事録は別紙のとおり

第 26 回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 令和 4 年 11 月 4 日（金） 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
3. 出席者 岡山慶子委員、小野崎委員、門暉代司委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中西郁絵委員、西川明樹委員、平岡直人委員、三井高輝委員、村林守委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員
- ※欠席者 梅村光久委員、西村訓弘委員、松浦信男委員

〔事務局〕竹上市長、山路副市長、永作副市長、岡本企画振興部長、藤木企画振興部経営企画担当参事兼課長、小川企画振興部経営企画課政策経営係長

4. 資料

- ・資料 1 令和 4 年度松阪市市民意識調査 速報値抜粋
- ・資料 3 新型コロナウイルスの感染状況
- ・資料 3 第 61 回氏郷まつりポスター
- ・資料 4 みえ松阪マラソン 2022 集計表パンフレット
- ・資料 5 総合計画等評価委員会 ご意見抜粋

1 市長あいさつ

市長)

皆さんこんにちは。お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。普段、リモートで参加していただいている委員さんが、本日会場に起こしいただき、代わって私がリモートで参加させていただきます。申し訳ありません。私は月曜日から入院をしております。昨日は氏郷まつりが開催されました。天候にも恵まれ 18 万人の方にご参加いただき、嬉しく思っております。コロナが収まったわけではなく、昨日は松阪市でも約 80 人の感染者が報告されましたが、市民の皆さんの市民活動に対するニーズを確認させていただくことができました。また、自分が入院して、医療関係者の方々の大変さがよくわかりました。地域医療を守ることの大切さを感じました。今日のテーマは「令和 5 年度に松阪市は何をすべきか」です。皆さまからさまざまなご意見をいただければと思っております。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

○ 会議の公開・非公開の決定
会長)

それでは会議の公開・非公開を決定したいと思います。公開で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

会長)

それでは公開で進めさせていただきたいと思います。

2 協議事項

1) 令和5年度の主な事業について

会長)

では協議事項に入ります。資料について、市長からご説明をお願いします。

市長)

それでは『資料1 市民意識調査の速報(速報値抜粋)』をご覧ください。

まず、「広報全般について」という設問についてです。松阪市公式アプリ「松阪ナビ」を「知らない」と回答された方が57%いらっしゃいます。さらに、「知っているけれどダウンロードしていない」と回答された方が16%いらっしゃいます。アプリの存在を知らない方が約6割もいらっしゃるのには問題だと認識しています。

次に、「アフターコロナの重点的施策」という設問についてです。力を入れていくべき分野の筆頭に「地域医療」が挙がっていますが、昨年と比較するとポイントは減少しています。2番目には「子ども子育て支援」となっております。重点施策としてあがる項目と順番は、前回調査時と変わっていませんが、それぞれの項目のポイントが減少しています。

次は「シビックプライド(松阪というまちを愛し、誇りに思う心)について」という設問についてです。「大変持っている」「まあまあ持っている」と回答された方が約6割、「あまり持っていない」「ほぼ持っていない」と回答された方が約3割という結果となりました。シビックプライドを持つ方が増えるよう、取り組んでいく必要があると思います。

次に「公民連携事業について」という設問についてです。「積極的にすすめていくべき」「どちらかというすすめていくべき」と回答された方の合計が7割を超えています。多くの方が公民連携は推進すべきだとお考えです。

次に「カーボンニュートラルについて」という設問についてです。「必要だと思う」「どちらかという必要だと思う」と回答された方の合計が9割を超えています。具体的な手法については、公共施設や学校施設へのLEDなどの省エネ設備の導入、食品リサイクルや家庭の生ごみのバイオマス化、森林などの整備、公共施設への太陽光パネルの設置が挙がっています。

次に「福祉の重層的支援体制について」という設問についてです。今年から開始した「福祉まる

ごと相談室」の必要性について、9割を超える方から必要だという回答をいただきました。

次に「観光施策について」という設問についてです。今回の調査では、松阪市が「観光地である」と回答した市民の方が38.1%で、前回より高くなっています。ちなみに6年前は約25%でした。松阪市は観光地であると市民の方に認識いただくのは重要なことだと思っています。また、「観光客などから松阪市のことをたずねられた場合何を紹介（自慢）しますか」という設問に対しては、約4割の方が「グルメ（松阪牛）」と回答しています。

次に「医療に対する意識について」という設問についてです。コロナ前と比べて受診回数が「減った」という方が約25%いらっしゃいます。これは医療収入の減少につながる話だと認識しています。また、健康診断や検診等の受診回数が「減った」という方が約12%いらっしゃいます。

しかしながら、コロナが終わったら、来院を控えていらっしゃる方が戻ってくるかというところでもないと思います。そうすると、病院の経営にも影響してくると思いますが、いかに地域医療を守っていくかがこれからの大きなテーマになってくると思います。

次に、『資料2 新型コロナウイルスの感染状況』をご覧ください。第7波は相当数の感染者が発生しましたが、第6波より重症化リスクが減少したこともあり、医療関係者の方々によれば第6波の方が負担を感じたとのことでした。

次に『資料3 第61回 氏郷まつりポスター』をご覧ください。ありがたいことに無事成功を収めることができました。今後予定される「松阪牛祭り」「みえ松阪マラソン」などに繋げていきたいと考えています。

次に『資料4 みえ松阪マラソンのエントリー状況』をご覧ください。47都道府県から7,393人のエントリーがありました。10kmまたは2.9kmを走る短距離部門と7.4kmを歩くウォーキング部門を合わせると9,139人の方からエントリーをいただいております。当日のコースもお配りさせていただいております。

私からの説明は以上です。残りの資料は事務局から説明させていただきます。

事務局)

失礼いたします。「資料5 松阪市総合計画等評価委員会 意見抜粋」は事務局から説明させていただきます。

こちらの資料は、これまで2回開催いたしました「総合計画等評価委員会」にて出された意見を抜粋し、松阪市総合計画の政策別に整理したものです。

「政策1 輝く子どもたち」では、「預かり保育や地域保育商業施設は、利用率を意識しながら保護者のニーズを分析して将来計画にあった整備をしてほしい」などといった意見が出されました。

「政策2 いつまでもいきいきと」では、「新型コロナ対応については、ワクチン接種、PCR検査体制、コロナ病床数などこの地域だけでなく県下でもある程度評価できる内容と思う」などといった意見が出されました。

「政策3 活力ある産業」では、「農業については、獣害に強い薬用作物栽培といった新たな取組をしており評価できる」などといった意見が出されました。

「政策4 人も地域も頑張る力」では、「住民自治協議会が各地で取り組まれていることは、優れた活動であるので、もっと発展させていって欲しい」などといった意見が出されました。

「政策5 安全・安心な生活」では、「防災についてはコロナの影響で、住民啓発など目標達成できなかった部分があるが、オンラインやSNSなどを活用した地域活動を考えることも必要」などといった意見が出されました。

「政策6 快適な生活」では、「公共交通については、満足度など測りにくい。市民生活にどのくらい貢献があったかを定性的に評価してはどうか」などといった意見が出されました。

「政策7 市民のための市役所」では、「総合計画のめざすものがどの程度達成できているのかが分かりにくかったが、「実行宣言」を政策施策別に編集したことで見やすくなった」などといった意見が出されました。

その他に、「行政評価には市の業務を改善することと市民への説明責任を果たすという2つの意味があり、活動のプロセスと成果を記載する必要がある」「コロナの影響で指標の結果が取れないときは代替指標を執る方法がある」「評価の効率化のため優先度を決め、優先課題について重点的に議論した方がよいのではないか」などといった意見が出されました。

会長)

ありがとうございます。それでは何かご意見はありませんか。

委員)

公共交通・カーボンニュートラル・子育て支援を連動させた事業を考えてみました。例えば土日に市内企業を、バスを使って親子で見学をするという事業はいかがでしょうか。親子での企業見学ツアーといったものはなかなかありませんし、環境に配慮してマイカーを使用しないというのはいかがでしょうか。また、資料5に「中山間地域の移動手段の確保が必要」とありますが、先日大阪で開催された商品展示会に自転車タイプのタクシーが展示されていました。これは三輪車の真ん中に2~3人を乗せられるようになっていて、初老の方が漕げる程度の電動アシスト機能がついているものです。また、外側に広告を掲載することもできます。中山間地域でのシニアの移動手段で活用できるのではないのでしょうか。

委員)

公共交通について、道路整備は車を対象に行われていることが多いですが、自転車や歩行者の利便性を高めるための道路整備も必要だと思います。市民の健康増進にもつながるのではないのでしょうか。

委員)

資料5の「人も地域も頑張る力」のところに住民自治協議会のことをあげていただいています。先日コミュニティセンター条例の議決があり、モデル地区である徳和地区も報道されましたが、県

内各市から問い合わせがありました。

委員)

資料1の3ページについて、シビックプライドのような数字で測りにくいものを大切にしていって時代になってきていると思います。こういった定性的なものを見ていく市政であっていただきたいと思います。ただ、回答者の方が「わがまちのために活動する」という「シビックプライド」と「わがまちが好き」という「郷土愛」の違いを理解したうえで回答していただいているのか、少し気になりました。シビックプライドがあると回答された方に、どういった活動をされているのかを訊いていただくといいのではないのでしょうか。

また、公民連携についてですが、「公」と「民」という二つのセクターが、一緒に何かをすることを全て連携と捉えてしまい、深まらないことがあります。例えば「公」と「民」が一緒にゴミ拾いをしただけでは公民連携とはいえません。公益的な民を育てるところから着手していただくのではないのでしょうか。

委員)

資料1の3ページ、公民連携事業の推進についての設問は、もう少し補足や説明があってもいいように思いました。また、2ページのアフターコロナの重点的施策についてですが、力を入れていくべき施策として、企業誘致のポイントは高くなっていますが、商工業や農林水産のポイントは減少しており、私が日々業務のなかで得ている感触とはかなり乖離しているように思います。この調査結果をそのまま政策に反映させるのではなく、深掘りしていただく必要があると思います。

委員)

私も委員のご発言に同意致します。調査対象者に高齢者が多く含まれば、力を入れていくべき施策として、医療や福祉のポイントは必然的に高くなりますが、年代別の回答データも活用して、将来世代に対する投資もしっかり行っていくべきだと思います。

また、資料1の4ページ目の福祉の重層的支援体制の項目について、「福祉まるごと相談室」はス推進すべきだと思いますが、事務局としては税負担や自己負担が発生するとなったらどういう回答になるかを想定しておくべきだと思います。将来不安や水道事業に関する項目についても、税負担や自己負担についても啓発していくべきだと思います。

委員)

先の委員のご発言に関連しますが、資料1の2ページ目のアフターコロナの重点的施策について、社会教育が最下位、文化が下から5番目で非常にショックでした。コロナになってから生涯学習活動の機会が著しく減少していることが影響していると考えます。住民自治協議会はまちづくりや地域おこし活動に一生懸命取り組まれており、素晴らしいと感じますが、生涯学習活動の機会は減っていると思います。生涯学習活動は郷土愛及びシビックプライドの醸成に繋がると思いますの

で、市の方で生涯学習活動をサポートする体制を整えていただきたいと思います。

委員)

公民館での生涯学習活動は約2年半出来ていませんが、今年度から少しずつ人数制限等も緩和されてきましたので、頑張っていきたいと思います。

会長)

委員のご指摘のとおり、社会教育や文化といった松阪の強みにつながるような施策が、コロナ後の重点施策として重要度が低いのは気になります。市から何らかの働きかけが必要なのではないのでしょうか。

委員)

コロナの影響で、生涯学習活動に取り組むような雰囲気が無くなってしまったと感じています。市の方でサポートしてほしいと思います。

委員)

来年度の予算についてどうするかというのが本日のテーマだということですが、長期的なプランに基づいた予算編成があっても良いのではないのでしょうか。SDGsの理念に基づき、自治体も企業も2030年以降の社会を見据えて活動していくことが求められており、松阪市も例外ではないと思います。また、市民全員参加でまちづくりを進めていることが分かるような予算編成ができるといいと思います。

委員)

市民意識調査の結果についてですが、数字は捉え方によってはさまざまな解釈が可能ですので、丁寧に見ていただき、活用していただきたいと思います。一方で数字は嘘をつきませんので、市民の重要度が低い政策に予算を割くことについては慎重に検討していただきたいと思います。

また、シビックプライドについてですが、シビックプライドとは「憧れるまち」ということなのではないのでしょうか。その醸成にどれくらい予算を割けるかということになってくると思います。財源は限りがあるので、あらゆる政策に投資することはできないと思います。非難があることは覚悟のうえで、重点的に予算配分する政策を決めていかれるといいと思います。

委員)

資料1の2ページ目の「松阪ナビを知っているかという設問について」ですが、私も今回の資料を拝見して、初めて存在を知りました。また、私の周りにも知っている人がほとんどいませんでした。アプリの開発などは費用がかかっていると思いますので、もっと周知して活用してもらった方が良くと思います。周知の方法については、現在市内にお住まいの方はもちろんですが、転入され

た方にもアプリがあることを案内して、生活の情報を得る窓口にしてもらえたらと思いますし、またダウンロードしていただいた方に施設優待券等の特典クーポンが付与されるような仕組みを整えていただければ、ダウンロード数も増えるのではないのでしょうか。松阪市のDX化を進めていくためにも、アプリの活用は今後重要になってくると思いますので、もっとアプリの存在を周知し、活用していただければいいと思います。

会長)

窓口でアプリを案内するのは良いアイデアだと思います。転入者に限定せず、窓口でアプリの存在を周知すれば、生活の情報を知るために、もっとアプリを活用していただけるのではないのでしょうか。

委員)

資料1についてですが、市民意識調査の結果と合わせて、庁内各部署の中の意見も施策に取り入れる必要があると思います。また、例えば道路の舗装などは市だけでは対応しにくいと思いますので、県との連携が必要だと思います。

また資料5における「政策5 安全・安心な生活」に対する意見についてですが、松阪市は車道と歩道の区分が曖昧な道路が多いように思います。また、市民へ注意喚起も行われていないように思いますので、そのあたりは注力いただきたいと思います。

委員)

今回いただいた資料はどのような形で公表されているのでしょうか。

事務局)

市長の記者発表やホームページ等で公表しています。

委員)

資料の表題が他の自治体と類似していて、注目しづらいと感じました。松阪市独自の表題を設定されるといいのではないのでしょうか。

委員)

アフターコロナの重点施策について、市長の方から地域医療に対する関心が減ってくるというお話がありましたが、パンデミックへの関心は時間が経つと薄れていきます。しかしながら、いずれまた同じようなパンデミックがやってきますので、今回を契機に感染症に対する対策を講じておく必要があると思います。例えばパンデミックの中でどのように文化交流を推進するかというようなところまで対策を立てるといいのではないのでしょうか。

委員)

資料についてですが、病院の受信率などについては全国データと比較できると良いと思いました。

委員)

他地域との比較や、経年での変化を見ていくことが大事だと思います。

委員)

アフターコロナの重点的施策についてですが、先ほど委員から市民活動推進が下位となっているとお話がありましたが、その原因として継続性がないことが挙げられると思います。我々もボランティア団体として子育て支援に関する活動に取り組んでいますが、日中は仕事があるので時間が確保できなかったり、費用の関係で参加できなかったりします。やはり行政から何らかの支援がないと難しいと感じています。

また、文化活動に関して、昨日氏郷まつりに参加しました。参加してみて、市民が祭りを楽しんでいるのをひしひしと感じました。こういった市民の熱量を政策に活かしていかなければいけないと思いました。また、参加者の話から氏郷まつりのブランド力を感じて、シビックプライドはこういうところから生まれるのではないかと思います。松阪の魅力を語る可以增加する人の増やすための取り組みを実施されるのはいかがでしょうか。

また、こどもの学力が発表されましたが、勉強だけでなく非認知能力を高める教育も大切だと思います。友達と外で遊んで学んだことこそ本当の学力なのではないでしょうか。

委員)

資料1について、観光施設に関する問いがありますが、かつての松阪市は「観光」とは無縁のまちであったように思いますが、よく推進されたと思います。松阪市には歴史も含めて豊富な観光資源があります。ただ、それらを活用するには市民と行政の連携が大切だと思います。市民を巻き込んで政策を推進することが大切だと思います。

委員)

お住まいの方が「住んで良かった」と思えるまちが、「誇れるまち」なのではないでしょうか。本町は景観重点地区に指定していただいておりますが、もう一歩進めて、空家を貸店舗として活用できるようにして、外から人が入ってくる仕掛けをつくれば、まち全体が活性化されると思います。

委員)

アフターコロナの重点施策として、文化のランキングが低いのはショックですが、緊急性と重要性のマトリックスにすると、命に関わる施策と個々人の収入に関わる施策が上位に挙がり、その他が置き去りになる傾向があります。そのため、「松阪らしさ」を探すには問い方を変えると良いのではないのでしょうか。また、「わからない」「特にない」という回答があるのが気になります。

市長)

コロナの第8波はやってくると思いますが、昨日の氏郷まつりのように、社会活動はそれなりに実施していく予定です。コロナで社会的制限が課された2年半で、私たちは仕組みを変えることに取り組んできました。例えば、住民自治の形を少し変えようとしていて、市民センターを住民自治協議会に指定管理しようと考えています。市民と行政を近づけようとしています。表裏一体なのが、福祉まるごと相談室です。これは中学校区プラスアルファくらいで地域につくっていく予定です。そうすると人が足らなくなりますので、人的資源は福祉部門に振り分けていこうと考えています。今でも4割くらいが健康福祉部に属していますが、これからの福祉課題に対応するため、もっと人員を割いていきます。行政として福祉部門に軸足を置きます。

もう一つはまちづくりとして、いかに市民を巻き込んでいくかが大切だと思います。そのためには市役所の役割を変えて行く必要があります。行政とともにまちづくりに取り組むサポーターをつくっていくことが必要です。松阪市で一番伸びしろがあるのは観光分野で、我々にとっての光です。三井高利生誕400年、来年は三井グループ生誕350年の記念すべき年です。これを発信していくためにも、サポーターが必要だと考えています。

委員)

現在、充足感をどうやってつなげていくかということが、社会的に問われていると思います。市長のご発言にはとても共感しました。また、三井高利さんに関する催しは日本としても大きなイベントだと思います。今年、来年だけではなく、ずっと継続していただきたいと思います。

委員)

行政もある程度リスクをとって、政策を講じていって良いと思います。第8波が到来すれば、ある程度の感染者は発生するでしょうが、あまり惑わされずにやるべきことをやっていけば良いのではないのでしょうか。また、子どもの“遊び場”をつくるのが大事だと思います。先日、千葉県でタワーマンションの25階から2歳の子が転落する事故がありました。こういったニュースを目にすると、親御さんはどんどん子どもを遊ばせなくなるようになってしまっていますが、そうではなく、いろいろな遊びをさせることが子どもの成長につながると思います。

委員)

市長の構想の実現のために、私たちにもできることがあると思いますので、ご相談をいただければと思います。

委員)

市長の方針に共感を覚えました。三井高利生誕400年にかかるイベントは、全国的にはあまり盛り上がっていませんが、来年の三井グループ創業350年にかかるイベントはもう少し全国メディア

で報道されると思いますので、それに乗じて、外部の方と連携して発信していただくと良いと思います。また、最近松阪牛のみならず、鳥肉や豚肉など松阪に関するさまざまなグルメ情報を目にします。何か一つのコンテンツにきっかけにして、松阪市のさまざまなコンテンツに気づいていただける仕掛けを用意していただくと良いと思います。

市長)

委員が仰るような仕掛けを用意することが必要だと思っています。どういうやり方が効果的か、現在模索しているところです。来年は発信の年にしたいと考えています。委員からありがたいお言葉を頂戴しました。私は、今後ボランティアを有償化していくことが必要だと思っています。人の善意に頼るのは限界があると感じています。特に、成果連動型で報酬を支払うやり方を考えています。時間がかかるかもしれませんが、いずれは市民が投資をしてコミュニティビジネスを支える仕組みにしていきたいと考えています。

委員)

市長から「対価」というお言葉がありましたが、パートナーを組む場合、住民自治協議会と今のボランティア団体と体質が違うということは認識しておいてほしいと思います。それを踏まえたくえでシステムづくりをお願いしたいと思います。

委員)

お金で達成感を得る方もいれば、そうでない方もいらっしゃいます。一度報酬を支払う仕組みにすると、元に戻すことができないので、連携するサポーターが何を求めているかを良く考えていただく必要があると思います。

会長)

私からも一つだけ述べさせていただきます。今年度ようやく「みえ松阪マラソン」が開催されるわけですが、来年度の第2回目が大事だと思いますので、また全国へ発信する仕組みをお考えいただきたいと思います。

事務局)

ありがとうございました。では最後に次回の開催についてご連絡をさせていただきます。次回は1月20日金曜日15時からの開催予定です。日にちが近づいてまいりましたら、またご案内をさせていただきますので、よろしく願い致します。以上をもちまして、第26回松阪市政推進会議を終了させていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

《午後5時00分終了》